

2024年度 第4回マッチングワークショップ (MWS) 実施報告

湘南工科大学 副学長・工学部長 森井亨

真夏日が連続する猛暑が少しだけ和らぎ始めた夏休みの終盤、8月24日(土)に本年度4回目のMWSを開催しました。今回は29名の参加予定で、4~5名を1グループとして6グループの編成を行い、参加者には受付時に各自のグループを指示し、着席してもらいました。教室内での誘導は在学生スタッフがを行い、時折雑談をしながら参加者の緊張を解く手助けをしています。残念ながら当日の開始直前までキャンセルや未連絡の欠席があり、最終的に21名の参加となったため、グループを編成し直し、一旦座った席から移動してもらうことになってしまった参加者が多数発生してしまいました。移動に協力いただいた参加者の皆さんには不安な思いをさせてしまったかもしれません。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

【オープニング】

1グループあたり4~5人の編成で、全体の進行担当の指示のもと、ビブスの着用、ニックネームを記載した名札シールの準備をしてもらいました。名札シールは、各参加者がグループのみんなに呼んでもらいたい名前をシールに書き、ビブスの見やすい場所に貼ります。準備が整ったところで、全体の進行担当から実施内容、MWSを通して心がけてもらいたいこと、進行の概略を説明したのち、これから行うグループワークの環境作りとして、簡単なアイスブレイクを15分程度行いました。開始前にすでに会話の盛り上がりしているグループもありましたが、頭と身体を使うアイスブレイクでグループの一体感が増したように感じられました。十分にグループメンバーと打ち解けてきたところで、次のグループワークへと移行します。

【前半のグループワーク】

メンバーそれぞれが2分間で事前に提示されていた課題について自分の考えを説明し、そのあと20分程度で意見交換を行いました。今回の課題は「日本およびドイツの自動車販売台数に占める燃料別販売台数比率の比較」から電動車普及について考えるものでした。事前に調べてきた情報を整理し、まとめた事前課題シートを見ながら、グラフをどのように読み取り、そこからどんなことを理解したかを説明しながら、さらに諸外国の動向や自身の意見を交えた発表が各グループで行われていました。発表は、事前にまとめてきた内容を読み上げるだけでなく、用意してきた資料をテーブルの真ん中に置いて指さしながら説明する人や、まとめた資料をメンバーに配って説明する人など、各グループで様々な発表方法が見られました。発表者の様子を見てみると、今回は手元資料を見ながら比較的淡々と説明している人が多かったように感じました。発表では、いかに聴き手に伝わるように説明するか、というところがポイントです。ただ調べてきたことを読み上げるだけでなく、「人に伝えるとはどういうことか」を、今後MWSへの参加を検討している人は注意してみてください。一方、聴き手となった参加者は、自分のメモシートに大事な点や気になった点をメモしながらも、発表者に反応を示しながら聴いている人や、まずは聴くことに専念している人など、グループごとに良い雰囲気の中で発表が進行していました。グループワークでは、聴く姿勢もとても大切です。まずは発表を理解すること、その中でポイントをメモする、ということを中心に行いましょう。それぞれの発表の後は自由に議論する時間となり、話し足りなかった点を話す人、それを促す人、発表を聴きながら気になった点を質問する人などが見られました。また、議論が進むにつれて進行役を務める人、議論の発端となる発言をする人、他の

人に発言を促す人など、自然に役割分担ができていくグループがある一方で、そういった役割を率先して務めている人達も見られました。事前課題の内容について様々な観点から、活発な意見交換が行われていました。

【グループワークのまとめと休憩およびグループ移動】

休憩を含めて10分程度の時間をとり、各人がグループで議論した内容を整理し、次のプレゼンテーションで話す内容の準備をしました。休憩時間中も席を離れず、グループのメンバーと意見交換しながら、後半のプレゼンテーションに向けてメモの整理に取り組んでいる様子が見られました。

【後半のプレゼンテーション】

各グループから1名ずつ集めて作った新しいグループで、前半のグループワークで議論した内容を2分間で順番に説明してもらい、その後2分間の質疑応答の時間を設け、意見交換を行いました。休憩時間中に作成したメモを見ながら、各自がまとめた議論内容を新しいグループメンバーに伝えるように、資料を見せたり、作成したメモを見せたりしながら、身振り手振りも交えて発表を行っていました。また、質疑応答の時間も引き続き様々な意見が飛び交い、比較的静かな雰囲気の中ではありましたが、熱い議論が進められている光景が見られました。

【クロージングと振り返り】

最後に、各評価担当教員から全体の振り返りとしてコメントをもらいました。続いて進行担当の教員から終了にあたっての説明を行い、その後振り返りシートへの記入と簡単なアンケートへの回答を行ってもらいました。最後は、書き終えた人から流れ解散としましたが、帰り際にはお互いに声を掛けながら、あるいはSNSを交換したりしながら、にこやかに帰って行く姿が見られました。

終了後に記入してもらった振り返りシートでは、このMWSでの自分の行動、グループメンバーの行動を振り返ってもらいました。発表時に心掛けたこと、それがどの程度達成できたか、また他のメンバーの行動からどんなことを受け取ったか、などを整理して書いているものが多く見られました。単に何を行なったかだけでなく、それから何を感じ、どのような取り組みができるかまでまとめることを意識してもらえると、意味のある振り返りとなると思います。

このMWSというイベントは、本学の総合型選抜MWS方式への出願要件となっていますが、その目的は現在の湘南工科大学での学修の基盤となるアクティブラーニングを取り入れた授業と同様の学び方を体験して、本学との相性を測ってもらうことです。本学ではMWSのような授業形式を様々な授業で取り入れています。総合型選抜での出願に限らず、湘南工科大学を受験校の1つとして考えている皆さんには、是非このMWSに参加してもらい、大学生として学ぶ4年間のこの湘南工科大学で過ごすことが自分に合っているかどうかを確認してもらえればと思います。様々な大学がある中で、このMWSが自身に適した大学選びの参考になればうれしく思います。